

高校生の美術 3
表紙作品・作家紹介

1日10cm²の果てしない旅。

池田 学

本資料は、「教科書発行者行動規範」に
則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

㊦ 日本文教出版



池田 学 (いけだ・まなぶ)
画家

1973年、佐賀県多久市に生まれる。1998年、東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。卒業制作にて丸ペンを使用した細密技法を確立。2000年、同大学院修士課程を修了。2011年より1年間、文化庁芸術家在外研修員としてカナダのバンクーバーに滞在。チェゼン美術館の招聘を受け2013年6月よりアメリカのウィスコンシン州に滞在。

インタビュー動画も
あわせてご覧ください



「高校生の美術3」の表紙には、画家である池田学さんの作品「誕生」を掲載しています。東日本大震災を受けてこの作品の制作を決めたと語る池田さん。縦3m、横4mもの巨大な画面に緻密な筆致で描かれる、その世界観や技法などについて伺いました。

——彼方の地で心揺さぶられ

2011年3月、私はカナダのバンクーバーに移り住んだばかりでした。ですから東日本大震災そのものは体験していません。当時は、災害下にある日本のことを報道を通じて知るといって、極めて歯がゆい状況でした。自分に何ができるだろうか、すぐにでもボランティアとして現地に赴こうかと考えたこともあります。しかし私は画家です。画家としてできることは、やはり絵を描くことでした。

震災について表現することへの抵抗感がありました。故郷の惨状を海外で見ているだけだった私が、いったい何を表現できるのかと思い悩んだこともありました。それでも私には描くという手段しかありません。今すぐじゃなくて、いつか誰かの力になる。そう思って描き続けました。

——それでも日常は続いていく

「誕生」は東日本大震災そのものをテーマにしたもので

はありません。世界中のどんな場所であっても起こりうる自然災害とのかかわり方や、自然との共存などをテーマとしています。

最初に着手したのは左下のがれきの山です。それは震災を色濃く映すものですが、がれきの中にも、そこから立ちそびえる巨樹の中にも、私の身の上に起きた様々な出来事や、ふいに思いついたストーリーなどを描き入れています。完成に至る3年3カ月の間には、子どもが生まれたり、親友を亡くしたり、右腕を負傷して神経を痛めたりもしました。震災に呆然としながらも、日常は日常として続いていきます。そうしたすべてのことを、私というフィルターを通して昇華したのがこの「誕生」です。

——花を咲かせる意味

巨樹に花を咲かせるかどうかは最後まで迷いました。ですが、日常にあっても非日常にあっても絶えず繰り返される、あらゆる生命の「生」と「死」を予感させるものとして、細かなモチーフを組み合わせて花を描くことにしました。

たくさんの花を描きましたが、実在する花は1輪もありません。多様なモチーフが寄り添うように集まって、一つの花を形づくっています。いったいどんなパーツでできているのか、ぜひ実際にご覧いただければと思います。





高校生の美術3

表紙：

誕生

〔ペン・インク・透明水彩・紙／300×400cm〕

2013～16 佐賀県立美術館蔵

撮影：エリック・タドセン

アメリカにあるチェゼン美術館の滞在制作プログラムで制作された。全体としては波に洗われる巨樹のイメージだが、すべて小さなモチーフの集合体で生成されている。1日の進捗は10cm四方程度。完成までに3年3カ月を要している。



©IKEDA Manabu, Courtesy Mizuma Art Gallery, Tokyo/Singapore

——少しずつ、少しずつ

描き始める時点では、全体像は雲の中です。全体の下描きのようなものもしません。少しずつ少しずつ、1日に握りこぶし程度の面積を描き込み、連ねていきます。広大な白い画面と向き合っていると、まるで果てしない旅のように感じますね。とてもスローで地道な作業です。

そのうちに全体の流れのようなものが生まれてくるので、後半はその流れに沿って描き進めていきます。以前は気の向くまま、飛び地のように画面のあちこちを埋めていたこともありましたが、そうすると最終的につなげていく段階でどうしても無理が生じるので、今は左下から描き始め、広げていくという手法を採ることが多いですね。

——脳と手がつながる道具

主に使用しているのは丸ペンです。いろいろなペンを試しましたが、丸ペンが一番自分のアウトプットに合致していると感じています。作品制作においては、線が単調にな



制作中の様子

左：広大な画面にゆっくりと広がっていく緻密な世界。
右：3年目に突入した頃。

使用している丸ペンとインク。細い線が描け、力の入れ具合で線に強弱をつけられる。



誕生(部分)

撮影：宮島 径

- 1** 人や鳥、舟やプロペラ、テント、棺など、さまざまなモチーフで形づくられている花。自然界に実在する花は1輪もない。
- 2** 表裏一体の溶岩と温泉。ひとたび噴火すれば広範に被害を及ぼす火山も、温泉や風光明媚な景勝地、地熱発電などの恩恵を与えてくれる。
- 3** 描き始めは左下のがれきから。がれきの中にも、滞る制作を行ったマディソンの街に関するモチーフや、お子さんと連れ立ってよく出掛けたという遊園地などのモチーフが描き込まれている。

りすぎないようにGペンを使ったり、影の部分の奥行きを出すために筆で下地を塗ったりもしますが、やはり自分が一番描きたいように描けるのは丸ペンですね。

描いているうちにペンの先端が開いてきてしまうので、ペン先はその都度交換します。「誕生」の制作では、だいたい2〜3日に1本のペースで取り換えていました。完成までに使用したペン先の数は、ざっと400本以上です。

着色用のカラーインクはアクリル顔料の、日本の画材店には普通に売っているものを使用しています。「誕生」はアメリカのウィスコンシン州で制作しましたが、そこにはいつも使っているインクが売られておらず慌てました。とりあえず店頭にあるものを試しましたが、やはり発色が違

う。すぐに日本からいつものインクを送ってもらいました。

——「誕生」の見方、捉え方

もちろんどんな見方をしていただいても構わないのですが、まずは遠くから全体を見て、その全体のイメージを保ったまま近付いて、細部を見ていただけたらと思います。遠く、近く、遠くと繰り返して、遠くから見て感じた印象と、近くで見た微細な世界のギャップを楽しみつつ、作品に入り込んでいただけたら嬉しいです。

小さなモチーフ一つ一つにも意味があります。そこに込めた意味やストーリーを考えながら、私が一番大事にしている「全体感」を感じてもらえたらと思います。

日文の教科書ラインナップ

文部科学省検定済教科書



高校生の美術 1

116-日文 美Ⅰ-305

著作者 村上尚徳 横田学
安田淳 中村美知枝
末房貞樹 三井直樹
橋本典久



高校生の美術 2

116-日文 美Ⅱ-304

著作者 村上尚徳 横田学
安田淳 中村美知枝
末房貞樹 三井直樹
中野滋



新版 高校生の美術 3

116-日文 美Ⅲ-304

著作者 村上尚徳 横田学
安田淳 中村美知枝



高校美術 1

116-日文 美Ⅰ-302

監修者 永井一正 木島俊介
著作者 原研哉 近藤幸夫
末房貞樹 中野滋
宇野義行 内藤正人
三井直樹 橋本麻里



高校美術 2

116-日文 美Ⅱ-302

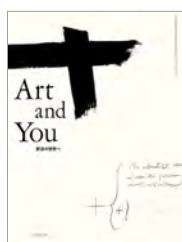
監修者 永井一正 木島俊介
著作者 原研哉 近藤幸夫
末房貞樹 中野滋
宇野義行 内藤正人
三井直樹 橋本麻里



高校美術 3

116-日文 美Ⅲ-302

監修者 永井一正 木島俊介
著作者 原研哉 近藤幸夫
末房貞樹 中野滋
宇野義行 内藤正人
三井直樹 橋本麻里



Art and You 創造の世界へ

116-日文 美Ⅰ-303

著作者 小澤基弘
高須賀昌志
鈴木康広
田島達也



工芸Ⅰ

116-日文 工Ⅰ-301

監修者 小松敏明
著作者 長濱雅彦
川野辺洋



工芸Ⅱ

116-日文 工Ⅱ-301

監修者 小松敏明
著作者 長濱雅彦
川野辺洋

平成31年度版 内容解説資料
1日10cm²の果てしない旅。——池田 学

116
日文

教科書 記号・番号

高校生の美術 3 美Ⅲ-304

編集／デザイン：有限会社リンカーベル ポートレート撮影：高橋宗正
本書の無断転載・複製を禁止いたします。
CD22164 2018年4月作成

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18・7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690